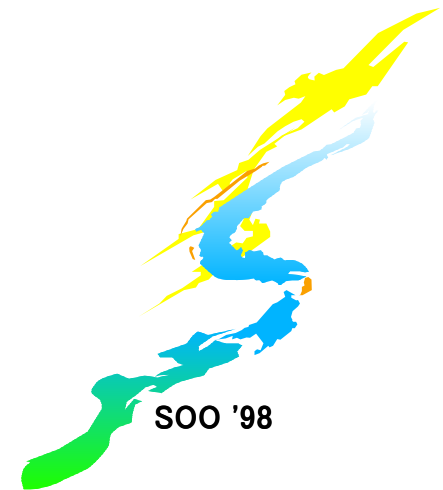
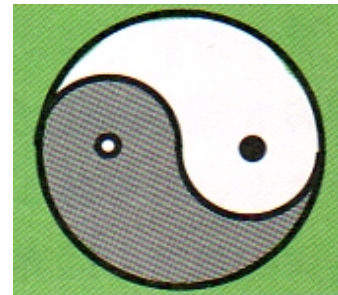


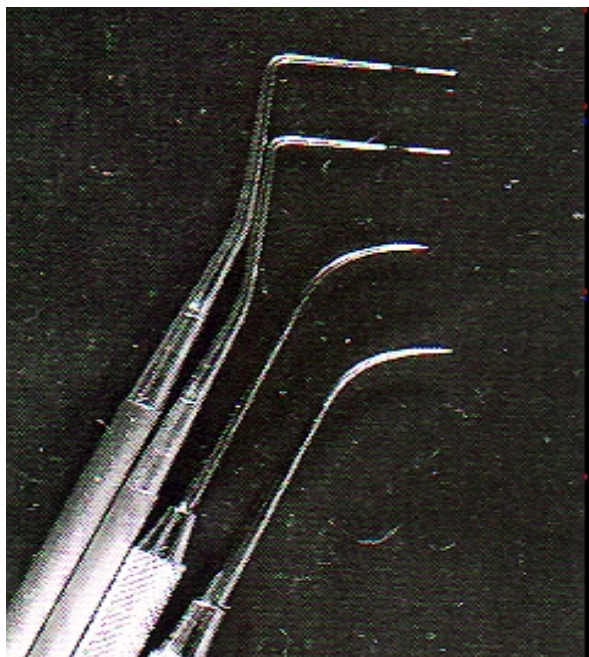
学校検診における探針使用の問題について

= 1998.5.28 =



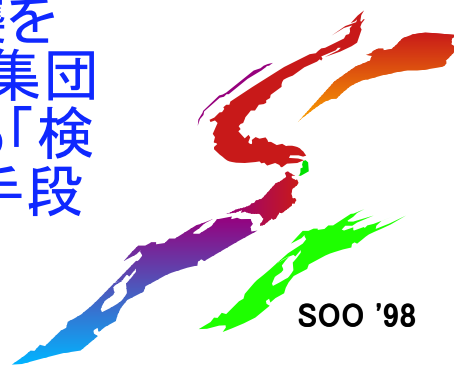
検診の際に探針を使うことの問題点

- ある歯科医師が下記の指摘を行ない、それが朝日新聞で報道されました。



WHOプローブと歯科用探針

- 探針使用により「要観察歯 (CO)」が治療勧告歯になってしまう危険がある。
- 「検診」の趣旨は、スクリーニングであり、「診査」および「加療」を目的としたものではない。
- 生体に不可逆的な侵襲を加える「診査」方法は、集団のスクリーニングである「検診」の際は用いるべき手段ではない。



SOO '98

*写真は、「ウ蝕治療・リポリューション」熊谷 崇ら デンタルダイヤモンド社より引用

調査方法について

この問題について専門家である大学関係者の考えを尋ねる為に下記の方法にてアンケート調査した。

■ 対象

- 全国29歯科大学・歯学部の小児歯科・保存修復・予防歯科（口腔衛生）の教授・助教授・講師

■ 人数

- 306名

■ 有効回答率

- 24.5% (75名)

■ 集計日

- 1998年4月15日(中間報告)

■ 集計方法

- 中間報告のため解答数の単純集計

● 日本ヘルスケア—歯科研究会調べ



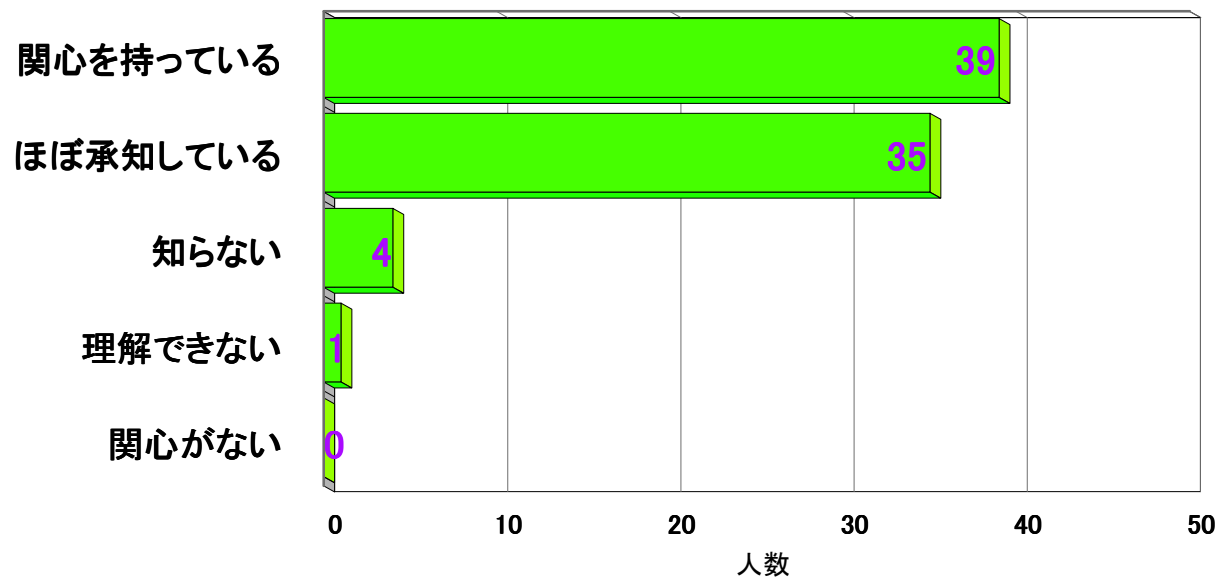
SOO '98

この問題に対する大学関係者の関心

■ アンケート項目

- 1960年代後半から歯科用探針による診査がエナメル表層を破壊し齲蝕を誘発する可能性があるとする研究が報告され、米国歯科医師会(ADA)は、JADA(1995)において探針の使用に警告を発していますが、御存知ですか？

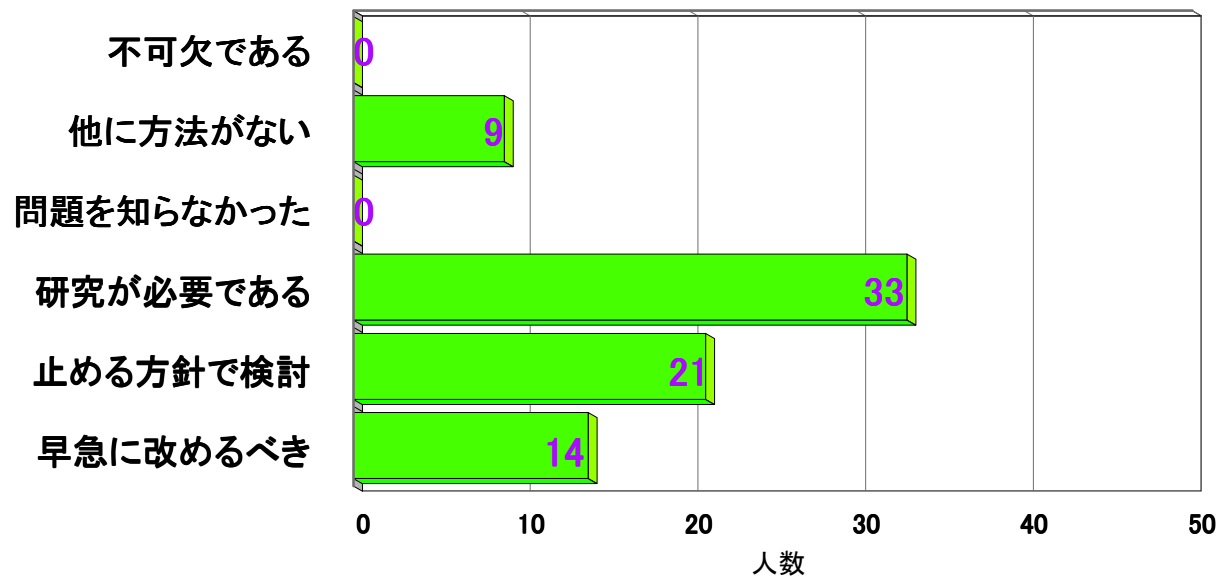
例 : Begman and Linden(1969), Backer Driks(1966), Loesche et. al.(1979),小澤ら(1990),Barbakow et al.(1991)



この問題に対する大学関係者の意見

■ アンケート項目

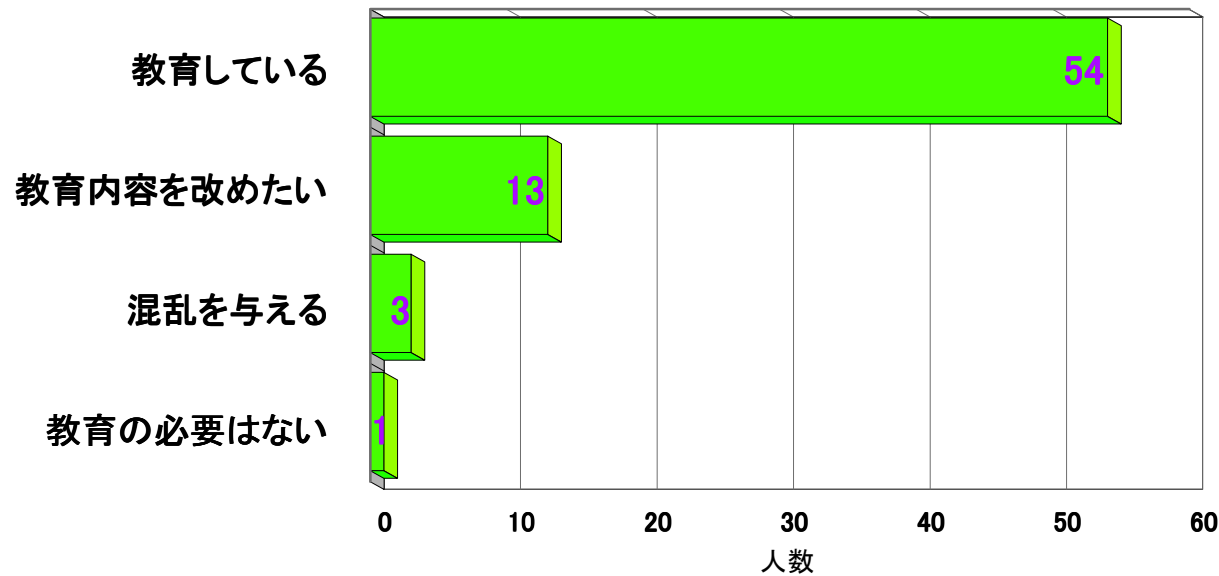
- 平成6年12月に改正された「学校保険法施行規則」において、要観察歯の判定方法として歯科用探針により歯面を触知することが明記されています。集団を対象とした齲蝕のスクリーニングにおける歯科用探針の使用についてどのようにお考えですか？



この問題に対する大学関係者の教育方針

■ アンケート項目

- 齲蝕診査における探針使用には、再石灰化の可能性のあるエナメル質および象牙質を破壊する危険があることを教育または指導されていますか？



補足説明および現時点での対応策

■ 補足説明

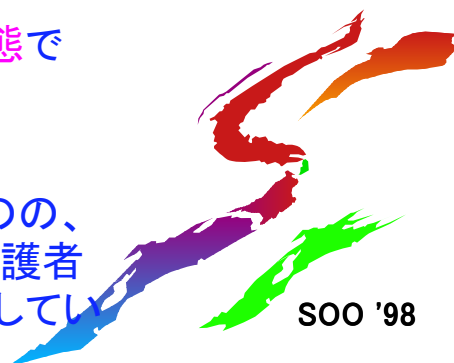
- 探針には、**検診用**と**診療用**の2種類があり、指摘されているのは**先の鋭利な診療用**の探針を検診に使うことの是非である事に注意して下さい。(写真参照)
- WHO(世界保健機関)では、**検診用**の探針を使って検診することを推奨しています。
- 予防歯科の先生方でも検診の際、鋭利な探針を**プラーク除去の目的**で使用すると回答している例もあります。診療用の探針を使用する学校歯科医を単純に誤りだと指摘するのはどうかと思います。
- 本市での学校検診での探針使用の実態は、32校中4校(95年)および8校(96年)でした。探針を使用する学校歯科医は、むしろ**熱心**に検診をおこなっている歯科医師であるという事実にも配慮して下さい。
- この問題は学校検診の際の問題であり、歯科医院での探針使用は、また別な次元の問題であることも認識して下さい。**診療には、探針が必要です。**

■ 対応策

- 学校検診の際に備品の探針を使用する際は、探針の先を研磨して**丸めた状態**で使用することで指摘された問題点を回避できると思われます。

■ 結論

- 指摘された問題点に関しては、今後も詳細に検討していく必要性は認めるものの、現時点での対応策もあり、それぞれの学校で充分対応可能と思われます。保護者から問合せがあった場合は、PTAなどの場を通じ十分な説明を行う事で対応していくのが良い方法かと思われます。



SOO '98